

山 梨 労 働 局 発 表
令 和 8 年 9 月 17 日

【照会先】

山梨労働局 労働基準部 健康安全課
(電話) 055-225-2855

令和8年度山梨県産業安全衛生大会において 「安全衛生に係る山梨労働局長表彰」を行います

山梨労働局（局長 岩崎 充）及び管内労働基準監督署が主唱し、一般社団法人山梨県労働基準協会連合会（会長 関 光良）など労働災害防止団体等8団体が主催する令和8年度の「山梨県産業安全衛生大会」が下記のとおり開催されます。

「山梨県産業安全衛生大会」は、各事業場における安全衛生水準の向上等を図るため、県内事業場の事業主、安全衛生担当者等の関係者が一堂に会し、毎年開催しているものです。

山梨労働局では、本大会に併せ、安全衛生に係る山梨労働局長表彰を行うこととしており、別添1「令和8年度 安全衛生に係る山梨労働局長表彰受賞者概要」のとおり、安全衛生成績が高い水準に達し他の模範と認められる優良事業場及び長年にわたり地域の安全衛生水準の向上発展に貢献をした個人を表彰することとしています。

当日の取材をお願いします。

- 1 日 時：令和8年10月1日（木）13:30 開会（12:30 開場）
- 2 場 所：山梨県立文学館 講堂（甲府市貢川1-5-35）
- 3 内 容：別添2「大会プログラム」のとおり
- 4 対象者：労働者の安全衛生管理に携わる方々、県民一般
- 5 参加費：無料（事前に主催団体に申し込みが必要）

※取材を希望される報道機関におかれましては、お手数ですが事前に山梨労働局 労働基準部 健康安全課まで連絡をお願いします。

令和 8 年度 安全衛生に係る山梨労働局長表彰受賞者概要

○表彰の目的

安全衛生成績が高い水準に達し他の模範と認められる優良事業場又は企業、長年にわたり労働安全衛生に尽くし、地域の安全衛生水準の向上発展に多大の貢献をした功労者等に対し山梨労働局長表彰を行い、その努力を讃えるとともに、これを県民に周知することにより、安全衛生意識の高揚等を図り、もって労働者の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成の促進に資するものとする。

1 山梨労働局長 奨励賞※（労働基準監督署推薦による）

事業場名 — 日本酸素株式会社 山梨事業所
所在地 — 北杜市高根町下黒澤 3054-3
事業の種類 — 一般機械器具製造業
事業の内容 — 産業用ガス設備の開発
労働者数 — 72 人

●新規設備の導入時等及び化学物質に係るリスクアセスメント（リスク（危険性や有害性）の特定、優先度の設定及びリスク低減措置の一連の取組をいう。以下同じ。）について、各部門長や現場担当者に対し丁寧に聞き取りをした上で実施しており、それを踏まえて作業手順書を作成するなど、リスクアセスメント並びに作業手順書の作成及び周知といった安全対策に一体的に取り組んでいる。

●労働安全衛生関係の有資格者（免許・技能講習等）について、5 年毎等の受講が望まれる再講習（法定の能力向上教育等）も含めて適切に取得・受講をしており、これらの取得・受講状況をリスト化した上で安全衛生委員会を通じて定期的に取得・受講漏れ防止の確認を行っている。

●月 1 回の安全衛生委員会の開催に併せ、5 S（整理・整頓・清掃・清潔・躰の頭文字を取ったもので安全の基本といわれる。以下同じ。）活動を重視した作業場の安全巡視を行い、その指摘事項や改善結果について事業場内で共有する取組を行っている。

●ヒヤリハット活動（労働災害に至らずもヒヤッとした、ハッとした事例を収集して労働災害の未然防止を図る取組）に積極的に取り組み、それらのヒヤリハット事例をデータベース登録した上で、ヒヤリハット事例を社内で共有する「保安推進デー」を月 1 回設け、ヒヤリハット事例を活用した安全教育を実施している。

●その他の創意工夫等による取組として、①A I を活用した危険予知活動（A I に社内の災害事例やヒヤリハット事例を読み込ませ、同種災害防止に活用）、②構内で受け入れている下請業者に対しての動画を活用した安全衛生教育、③適切な整備体制による熱中症予防対策、等を行うなど高い水準で安全衛生活動が展開されている。

●これらの安全衛生活動による成果として平成 31 年 2 月以降、7 年以上（約 96 万時間）にわたり休業を伴う労働災害を発生させておらず無災害を継続しており、その安全衛生水準については良好で他の模範と認められる。

※ 奨励賞 = 地域の中で、安全衛生に関する水準が良好で改善のための取組が他の模範と認められる事業場又は企業に対する表彰。

2 山梨労働局長 奨励賞（労働基準監督署推薦による）

- 事業場名 — 長田組土木・市川工務店・磯野建設若草小学校校舎改築工事（建築主体工事）共同企業体
- 所在地 — 南アルプス市寺部 740
- 事業の種類 — 建築工事業
- 工事の概要 — 校舎棟：鉄筋コンクリート造（地上3階）
屋内運動場：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造

【既に工事が終了しているため、以下は工期中の取組になります。】

- 基礎工事、躯体工事、仕上げ工事等工程別に分けた上で各々、当該工程特有のリスクを考慮したリスクアセスメントを実施し、さらに図面だけでは不明な点等についてドローンも活用して現場全体の写真を撮影した上で、効果的にリスクアセスメントを実施した。
- 危険予知活動について、同危険予知シートと合わせて手すり等の抜け防止のためのチェックシートを添付し、足場等からの墜落防止対策を徹底したほか、建設業労働災害防止協会山梨県支部（以下「建災防山梨県支部」という。）方式の「グッドリカバリー健康KY（危険予知）活動」（「事故や災害を回避した成功事例」としてポジティブに捉える危険予知活動）にも取り組むなど、効果的な危険予知活動を行った。
- 作業開始前の現場巡視において、現場代理人自らが現場作業員と積極的にコミュニケーションを取ることで、各作業員の安全意識の向上を図った。
- 毎月実施の災害防止協議会（元請一下請業者間で連携する協議組織）の活動の一環で、各下請業者が自社の作業場所の巡視を行い、その結果確認された作業導線やヒヤリハット事例の共有を行い、現場全体に展開した。また、収集したヒヤリハット事例は建災防山梨県支部の「新ヒヤリハット報告」システムに報告することにより、県内のヒヤリハット事例の収集や展開の貢献にも努めた。
- その他の創意工夫等による取組として、①毎週金曜日夕方を各下請業者が5S活動を行う時間として設定し同活動を展開したこと、②現場内トイレ内部への冷房ダクトの導入、ミスト設備の導入、作業員が自由にアイスを食べられる冷凍庫の設置、ウェアラブルデバイスを活用する等の効果的な熱中症予防対策を行ったこと、③山梨労働局と建災防山梨県支部が展開する「山梨県建設業ゼロ災宣言運動」による、社長名等のゼロ災宣言（当現場で災害ゼロとする宣言）を現場内に掲示・周知し、労働者の安全意識向上に努めたこと等、高い水準で安全衛生活動が展開された。
- これらの安全衛生活動による成果として、約1年4か月に及ぶ全工期にわたって不慮災害も含めて労働災害を発生させずに工事を竣工しており、その安全衛生水準については良好で他の模範と認められる。

3 山梨労働局長 功績賞※ （山梨労働局推薦による）

氏 名 ― 森 一博 氏

職 名 ― 現 山梨労働局 粉じん対策指導委員

（国立大学法人 山梨大学 大学院 総合研究部 土木環境工学系 教授）

●平成 29 年 2 月に山梨労働局の粉じん対策指導委員として委嘱され、以後 9 年以上にわたり、山梨県内において粉じん作業が行われている事業場に対し、専門的・技術的な観点で粉じん作業に係る作業環境や作業方法等の改善指導を行うなど、粉じん作業労働者の健康管理の指導に尽力され、山梨県内における粉じん作業等の有害業務が行われている事業場の安全衛生水準の向上発展に多大な貢献をされた。

※ 功績賞 ＝地域、団体又は関係事業場における安全衛生活動において指導的立場にあり、当該地域、団体又は関係事業場の安全衛生水準の向上発展に貢献をした個人に対する表彰。

大会宣言（案）

山梨県内の労働災害による死傷者数は、昭和35年をピークに長期的には減少しているものの、近年は増減を繰り返しつつ、ゆるやかな増加傾向にある。

令和7年の新型コロナウイルス感染症を除く休業4日以上労働災害は、948人と前年より52人増加し、平成8年以降最多となった。

また、労働災害による死亡者数は、9年連続して一桁台となったものの、前年より2人増加し、8人の尊い命が失われた。

一方、労働者の健康を取り巻く環境をみると、一般健康診断における有所見率は引き続き増加傾向にあり、全国平均と比べてもその割合は高く、受診者の6割以上が脳・心臓疾患につながる所見をはじめとした何らかの所見を有している状況にある。

加えて、多様な人材が安全に、かつ安心して働き続けられる職場環境の整備を推進するため、令和7年5月から順次施行されている改正労働安全衛生法等による措置をはじめとして、個人事業者等に対する安全衛生対策の推進、メンタルヘルス対策の推進、化学物質による健康障害防止対策等の推進、高年齢労働者の労働災害防止の推進、病気を抱える労働者の治療と就業の両立支援の推進等の取組を進めることが重要な課題となっている。

このような状況の中、労働災害を減少させ、働く者の安全と健康を確実なものとするため、経営トップの力強いリーダーシップの下、労使が安全と健康を最優先する理念に基づき、一致協力し、事業場における自主的な労働災害防止活動や労働衛生活動の充実及び強化に取り組むことが求められている。

令和8年度山梨県産業安全衛生大会の開催にあたり、本大会を契機に、労働災害のない安全で健康に働くことができる職場環境の形成を実現するため、山梨県内の全ての事業者、労働者、関係団体及び行政が一丸となって、労働災害防止及び労働者の健康確保に取り組むことをここに宣言する。

令和8年10月1日

令和8年度 山梨県産業安全衛生大会

令和8年度

山梨県産業安全衛生大会 プログラム



日時 令和8年10月1日（木）13:30開会（12:30開場）
会場 山梨県立文学館 講堂（甲府市貢川1-5-35）

主催

山梨労働局、甲府・都留・諏訪労働基準監督署

山梨県産業安全衛生大会実行委員会

一般社団法人山梨県労働基準協会連合会

建設業労働災害防止協会山梨県支部

陸上貨物運送事業労働災害防止協会山梨県支部

林業・木材製造業労働災害防止協会山梨県支部

公益社団法人ボイラ・クレーン安全協会甲信事務所

公益社団法人山梨県鉄構溶接協会

公益社団法人建設荷役車両安全技術協会山梨県支部

一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント山梨支部

独立行政法人労働者健康安全機構山梨産業保健総合支援センター

山梨県

一般社団法人山梨県医師会

日本労働組合総連合会山梨県連合会

山梨県経営者協会

中央労働災害防止協会

共催
後援

大会次第

- 1 開会式

開会の言葉
主催者あいさつ
山梨労働局長あいさつ
来賓祝辞

13:30～14:00
- 2 表彰式

安全衛生に係る山梨労働局長表彰授与
受賞者代表謝辞

14:00～14:15
- 3 大会宣言

(休憩 14:20～14:30)

14:15～14:20
- 4 特別講演

「治療と就業の両立支援」
～事業場訪問から見えてきた「選ばれる会社」の共通点～
山梨産業保健総合支援センター 産業保健専門職 小川 理恵 先生

14:30～15:15
- 5 事例発表

①「三井農林須玉工場の安全衛生管理体制」
～無災害継続に向けた取り組み～
三井農林株式会社須玉工場 (令和7年度 山梨労働局長 奨励賞 受賞)

15:15～15:55
- ②「ゼロ災を実現するには」
～地道な安全衛生活動の繰り返し～
株式会社内藤ハウス 本社工事部 (令和7年度 山梨労働局長 奨励賞 受賞)

15:55～16:00
- 6 閉会式

閉会の言葉

令和8年度 安全衛生に係る山梨労働局長表彰 受賞者

【山梨労働局長奨励賞】 地域の中で、安全衛生に関する水準が良好で改善のための取組が他の模範と認められる事業場又は企業に対する表彰

①日本酸素株式会社 山梨事業所

事業の種類：一般機械器具製造業
事業の内容：産業用ガス設備の開発

受賞のポイント：
新規設備導入時等のリスクアセスメントを適切に実施し、それを踏まえた作業手順書の作成及び周知といった安全対策に一体的に取り組んでいる。また、月1回の安全衛生委員会の開催に併せ、5S活動を重視した作業場の安全巡視を行い、その指摘事項や改善結果について事業場内で共有する取組を行っている。さらに、ヒヤリハット活動にも積極的に取り組み、データベース登録した上でヒヤリハット事例の社内共有や安全教育に活用している。その他、AⅠを活用した危険予知活動や動画を活用した構内下請業者に対する安全衛生教育等の安全衛生活動による成果として、平成31年2月以降、7年以上にわたり無災害を継続し、その安全衛生水準については良好で他の模範と認められる。

②長田組土木・市川工務店・磯野建設若草小学校校舎改築工事（建築主体工事） 共同企業体

事業の種類：建築工事業
工事の概要：校舎棟：鉄筋コンクリート造（地上3階）
屋内運動場：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造

受賞のポイント：
各工程特有のリスクを考慮して工程別に、さらにドローンも活用して効果的にリスクアセスメントを実施した。また、危険予知活動について足場等からの墜落防止対策を徹底したほか、建災防山梨県支部方式の「クッドリカバリー健康KY活動」にも取り組むなど、効果的な危険予知活動を行った。さらに、毎月実施の災害防止協議会の活動の一環で、各下請業者による自社の作業場所の巡視結果やヒヤリハット事例の共有を行い、現場全体に展開した。その他、5S活動を行う時間を毎週1回設定して同活動を展開したり、効果的な熱中症予防対策を行ったこと等の安全衛生活動による成果として、不体災害も含めて約1年4か月に及ぶ全工期無災害を達成しており、その安全衛生水準については良好で他の模範と認められる。

【山梨労働局長功績賞】

地域、団体又は関係事業場における安全衛生活動において指導的立場にあり、当該地域、団体又は関係事業場の安全衛生水準の向上発展に貢献をした個人に対する表彰

森 一博 氏

現 山梨労働局 粉じん対策指導委員

国立大学法人 山梨大学 大学院 総合研究部 土木環境工学系 教授

平成29年2月に山梨労働局の粉じん対策指導委員として委嘱され、以後9年以上にわたり、山梨県内において粉じん作業が行われている事業場に対し、専門的・技術的な観点で粉じん作業に係る作業環境や作業方法等の改善指導を行うなど、粉じん作業労働者の健康管理の指導に尽力され、山梨県内における粉じん作業等の有害業務が行われている事業場の安全衛生水準の向上発展に多大な貢献をされた。

令和8年度全国安全週間スローガン

『多様な人材 全員参加 みんなで育てる安全職場』

令和8年度全国労働衛生週間スローガン

『ひとりひとりひとりが貴重な人材 心も体も健やかに

みんなな生き生き健康職場』